



え、万感の門出！ コロナ禍を乗り越え

今月六日、第44回卒業式を行いました。感染防止のため、在校生の出席は生徒会役員に限定し、在校生は各教室で体育館からのリモート配信を視聴しました。最終学年を通して新型コロナウイルスを視察し、休校措置をはじめ学校行事、各種大会、受験などへの影響の中、それを乗り越えてきた本校自慢の卒業生。好天に恵まれ万感の門出となりました。



名護市立東江中学校
名護市大東二丁目1番1号
Tel (0980)52-1225
Fax (0980)52-1226
□発行 校長 島袋賢雄



卒業式 式辞

卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。本日ここに中学校の全課程を修了し、卒業の日を迎えました。様々なことを乗り越え、今日という日を迎えた皆さんの頑張り、教職員一同、心より祝福いたします。今年度、私たちはコロナ禍という予測不能の事態に直面しました。様々な工夫や色々の変更を重ねながら、この状況下においての最適な方法を探り、目標に向けて取り組んできました。大切なことは、この経験を私たちにどう活かすか、大人も子供も自分や周りの人の命を守るために、自粛という個々の判断が求められ、自分からコロナ感染を防ぐ行動を選ぶという自己管理能力が問われました。また、人間はすぐに偏見を持つたり疎外しがちですが、その人の立場になって考えることの大切さを改めて学んだり、平凡な毎日がどれだけありがたいことか、かを分かったことも、このコロナ禍の中で学びであったと思います。

さて、少しかり今年度を振り返ってみると、皆さんが三年生に進級した四月、すぐに臨時休業となり、登校できるようになったのは五月二日からでした。目標にしていた夏季総合体育大会や地区陸上競技大会をはじめ、各種大会・コンクール等も中止となり、非常に悔しい、残念な思いをした人も多かったと思います。しかし、それまでの間、仲間たちと頑張ってきた日々はかけがえのないものであったと信じています。先を見通せないことが多く現代社会にあっては、大会という結果だけでなく、そこに至るまでの過程こそが何より大切だと思えます。これまで当たり前だと思っていたことや感じていたこと、行って来たこと、それらを経て当たり前ではないことを身をもって経験した皆さんだからこそ、この経験を糧に今をこの一瞬一瞬をどう生きるかを大切に

していつてほしいと思います。この一年、様々な活動に制限が掛けられる中、現実をしっかりと受け止め力強く歩もうとする皆さんの姿が随所に見られました。生徒会役員の皆さんが事前の準備も入念に行い、リモート方式で行った生徒総会。運動会や校内合唱コンクールは、内容を精選し時間を短縮しての実施となりましたが、真剣に演技に取り組み姿やそれぞれがきちんと役割を果たした係活動など、後輩たちをしっかりとリードしながら一生懸命に取り組み姿は実に頼もしく、先輩としての責任を十分に果たしてくれました。十月末に行われた、地区駅伝大会では、女子が十七年振りの優勝を成し遂げ、男子も県大会には一歩及びませんでした。五位入賞に輝きました。その結果はもろろん素晴らしいことですが、三年生のリードのもと、お互いで声を掛け合いながら厳しい練習に取り組み姿、本番に至るまでの取り組み姿勢が、何よりも嬉しく思いました。「取り組み過程の大切さ、準備することの大切さ」を、後輩にしっかりと示してくれました。また、この厳しい状況下にあっても、最上級生である皆さんが日々落ち着いた態度で学校生活に臨み、穏やかに落ち着いた校風を築いてくれた四期生の皆さんに心から敬意を表します。ありがとうございます。

どうぞ、卒業生の皆さん、本校の校訓「不退転」を胸に、自分の可能性を信じ、何事にも粘り強くチャレンジし続ける皆さんであって欲しいと期待しています。これから新たな人生へ向けて船出する皆さんの健康と、これからの歩みに幸多かれと心から願っています。結びになりますが、保護者の皆様のご理解とご支援に対し改めてお礼を申し上げますとともに卒業生の皆さんの限りない前途を祝福して式辞といたします。

東江中学校 校長 島袋賢雄